

地域運動
最前線
20地区協議会

Vol. 3

連合大阪の5地域協議会に所属する20地区協議会。「地域に根ざした顔の見える連合大阪運動」を最前線で担う、その活動を紹介する。

大阪市地域協議会
城北地区協議会

役員構成 10構成組織 15単組 役員数24人

担当行政区 大阪市
(城東区、旭区、鶴見区、東成区)

主な街宣スポット JR放出駅・鳴野駅、
地下鉄蒲生4丁目駅・関目高殿駅・今里駅・
今福鶴見駅・千林大宮駅、京阪千林駅



- 議長 永井 勉 (UAゼンセン丸石製菓労働組合) ㊤
- 事務局長 浜口 正人 (電力総連 関西電力労働組合) ㊦

好評だった独自の環境行動
基本は地域に根ざした活動

連合城北地区協議会は、大阪市内東部の4行政区内に事業所をもつ労働組合組織の役員24人で構成されています。

活動の基本は、地域に根ざした顔の見える活動。主要駅での街頭行動をはじめ、環境行動や各種ボランティア活動への参

画、そして政策実現に必要な友好議員との連携など、「働くことを軸とする安心社会の実現」のため日々汗を流しています。

中でも、独自の環境行動として6月に実施した鶴見緑地公園での清掃活動には、城北役員とその家族総勢35人が参加し、成功裏に終わることができました。公園内は定期的に清掃されているので、思うほどごみの回収ができませんでしたが、目の行き届かない緑地帯内部や公衆施設の周辺のごみを拾い集め、一定の成果をあげました。

参加者から好評を得たこの企画、来年度以降も継続的に取り組んでいきたいと考えています。公園清掃のみならず、4行政区の区役所と連携をしつつ趣向をこらした取り組みとなるよう充実強化を図っていきます。



▲6月17日に実施した鶴見緑地公園での環境行動。参加者に行程を説明する浜口事務局長(左から2人目)

▼清掃活動後には参加者全員でバーベキューを行い懇親を深めた



城北がめざすもの

人とのつながりを大切に

城北地区協議会が心がけていることは、人と人とのつながりを大切に、一体感をもって活動を進めていくことです。これは活動の原点であり、このことが活動の実効性や意義に反映され、結果として地域社会にも伝わっていくと考えています。異業種で、立場も働く場所も違う役員の集まりな

ので、一体感をもった活動は容易ではありませんが、懇親会や定例幹事会の中では各組織からの情報発信や課題の共有化を進め、役員同士の相互交流や情報共有ができる環境づくりに努めています。

今後も日常の連携を深めつつ、地域に根ざした活動を地道に展開し、働くなかまや社会に認知され、頼りにされる地区協議会となるよう邁進していきます。